

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 大台町	対談項目1 発電施設売却益を地域振興基金に		<p>企業庁の水力発電事業を中部電力に譲渡する際の対価は104億円と聞いているが、地域振興を進めるために基金化を図り宮川流域の事業に役立ててほしい。 せめて、一般財源に入れるのではなく何らかの方策を考えていただきたい。</p>	<p>売却代金については、債権・債務の清算を行い、残った現金等を一般会計に入れることになるが、金額はこれから決まってくるので使い道は今後精査をして考えたい。何らかの形で地域振興に充てるように検討したいが、基金にするかどうかという形にするか今後検討したい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 大台町	対談項目2 道路改良整備について	(1)特別対策要綱について	大杉谷水没地域特別対策要綱には、久豆から桑の木谷間、領内、大杉谷境界から久豆間など道路整備計画が挙げられているが、県道の整備はそれほど進んでいない。	昭和27年に策定された大杉谷水没地域特別対策要綱に関しては、いろいろな要望をいただいております、どれくらいの進捗状況であるのか関係部署で精査を行っている。確かに、残っているのは、工事が難しく、財源がかかる道路が多いのは事実だと思っている。
3 大台町	対談項目2 道路改良整備について	(2)国道422号及び県道大台ヶ原線の早期整備について	安全に通行できるよう道路改良は必要である。町内では現在9か所で改良工事に取り組んでいただいている。国道422号と県道大台ヶ原線は地域の唯一の生活道路である。特に県道大台ヶ原線檜原地内の通称池の上箇所においては、幅員が狭く軽トラックでも対向は困難な状況である。地域住民の安全を守るためにも早期の整備をお願いする。県の従来の道路戦略では、通行量が少ないと対象外にされてしまうので、何とか特別対策としてでもやってほしい。	県道の整備については基本的に町や地元の意向を踏まえてやっている。平成25年度は町内で9か所、旧宮川村管内では6か所の道路改良工事に取り組む予定。池の上の箇所については道幅が狭く費用もかかることもあるが、大型車両の通行を妨げている岩の突起している部分を削る工事を6月24日に完成させた。財源の問題もありすべてに対応することはできないが、防災上、命の安全、医療機関へのアクセスなどの視点から、地元の皆様にも相談させていただき、できる限りの推進を行っていく。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 大台町	対談項目3 清流宮川の水質確保について	(1)水質の確保について	一昨年の7月にも宮川ダムの下流部で魚類等の大量死が発生した。上流では河川が濁った。清流宮川の水質確保について抜本的対策を示してほしい。	水質の確保については平成23年の渇水時に鮎などがへい死する被害が出るなど必要性は認識している。原因の特定なくしては効果的な対策ができないので、順次調査項目の追加、調査回数の増加を行ってきた。昨年からはかんがい放流時の魚類の生息環境調査を追加し、体制の整備を行った。調査の結果、鮎の餌となる珪藻が少ない箇所は見られたものの宮川の水質がへい死につながる問題は見られなかった。平成25年度の調査においてはダム湖3か所で含有酸素量や硫化物の発生状況などの調査を実施する予定。町から要望いただいたダム湖の調査箇所の追加等については、調査の精度を高めるため必要と考えており、町と調整させていただきたい。
5 大台町	対談項目3 清流宮川の水質確保について	(2)水位の確保について	ダムの放流直下では水位が低くなっている。選択取水塔の機能が十分に発揮されていないのではないかと。今後、ダムの水位を上げて、放流する水質を良くするのか、有効な対策が見いだせない場合は、上流の大和谷川等の水を直接下流に放水できるようパイプ等で引き入れることをお考えいただきたい。	ダムの水位の問題については、中部電力に譲渡後も従来の運用で対応が可能と考えており、中部電力に話をしながら県としても責任を持って確認していきたい。

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 大台町	対談項目4 水力発電事業の民間譲渡に関する要望について	鮎の毎年50万匹の稚魚放流に対する補償について、中部電力への譲渡後も県で責任を持ってやっていただきたい。	譲渡後においても中部電力が現在の補償を継続していくことが確認されている。また、「宮川流域振興調整会議」において県がその検証を行っていく。法的にも公共団体の民間企業への補償は禁止されている。宮川上流漁業協同組合に対しては引き続き理解が得られるよう誠意を持って対応してまいりたい。
7 大台町	対談項目5 堆積土砂の除去について	(1)宮川ダム上流部では堆積土砂により湖底が上昇し、観光船等の船舶が航行できない状態に陥っている。	平成16年及び23年の台風により宮川本川や支流の桧原谷(きそはらたに)川などに大量の土砂が堆積した。平成25年5月末時点で約23万6千m ³ の土砂の撤去を完了し、平成23年の被災前の状態まで復旧した。25年度は桧原橋周辺で1万9千m ³ の土砂を撤去する予定。今後も優先度の高い箇所を町と協議し、土砂撤去を進めていきたい。
8 大台町	対談項目5 堆積土砂の除去について	(2)土捨場の確保について	土捨場についてはいくつかの事業で他の場所へ持っていくような工夫を研究し始めているところであり、担当部局にも伝えておく。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
9 大台町	対談項目6 南部地域活性化プログラムの推進について		昨年度、南部地域活性化局をつくって、かなりの予算をつけてスタートしたが、本年度はそうでもなかった。大台、大紀、南伊勢など過疎地域に対する支援、配慮を引き続きお願いする。	南部地域活性化の基金については今年度は積み増しは行わなかったが、財政状況の厳しい中、事業化の掘り起こしと財源の積み増しをバランスをとってやっていきたいと考えている。事業化の掘り起こしにあたっては町にもお知恵をお借りし、ご協力をいただきたい。
10 大台町	対談項目7 防災ヘリポートの整備について	(1)旧宮川高校跡地に広域防災拠点を整備してほしい	宮川高校の跡地に防災ヘリポートを整備してもらいたい。大台町のあたりが距離的にもちょうど空白地域になっているような思いがある。	広域防災拠点については、中勢、東紀州、伊勢志摩、伊賀の各地域で整備を進めており、県内のヘリによる活動範囲についてはカバーできている状況。大台町内では大台中学校のグラウンドや宮川総合支所のヘリポートなど災害時に利用できるヘリの臨時発着場が7か所あり、宮川高校の跡地につくらずとも対応は可能と考えている。
11 大台町	対談項目7 防災ヘリポートの整備について	(2)けが人・病人等の搬送手段について	医療機関の整備・確保が喫緊の課題となっている。町立報徳病院の入院・救急機能がなくなっていくことへの不安が大きい。ドクターヘリの拠点整備を進めてほしい。	ドクターヘリについては、大台中学校などが臨時離着場となっており、三次救急医療への対応を行っている。しっかりと運用できるように町、医療機関、消防本部と訓練を含めて連携を図ってまいりたい。

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
12 大台町	対談項目8 ユネスコエコパークを通じた町づくり		「大台ヶ原・大峰山」がユネスコエコパークの登録更新の時期となっている。奈良県、和歌山県の市町との共同申請を行っていくにあたり、県単位でも取り組みを進めてほしい。	ユネスコエコパークについては日本でも大台ヶ原や白馬村など3箇所しか指定を受けていない貴重な制度であり、平成25年の8月末までに文部科学省に継続の可否を報告する必要がある。奈良県、和歌山県に対し、延長に向けた働きかけをしっかりとやっていく。